

**福島第二原子力発電所 プラント状況等のお知らせ**  
(日報：平成 25 年 5 月 13 日)

平成 25 年 5 月 13 日  
東京電力株式会社  
福島第二原子力発電所

福島第二原子力発電所では、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波の影響により、1, 2, 4 号機において原子力災害対策特別措置法の規定に基づく該当事象が発生し、同年 3 月 12 日、内閣総理大臣による原子力緊急事態宣言が発出されました。

その後、電動機等の復旧や残留熱除去ポンプの機能回復等の緊急事態応急対策を実施し、同年 3 月 15 日までに全号機で冷温停止を達成しました。

以後、同対策を継続して実施し、電源供給機能や残留熱除去機能の多重化を図るなど、プラントの安定的な冷温停止の維持に努めた結果、同年 12 月 26 日、内閣総理大臣により当所の原子力緊急事態解除が宣言され、原子力災害対策特別措置法に基づく原子力災害事後対策の実施段階に移行しました。

同対策を実施するにあたり、原子力事業者防災業務計画に基づく復旧計画を策定（平成 24 年 1 月 31 日提出、同年 5 月 31 日改訂 1、同年 10 月 16 日改訂 2、同年 11 月 21 日改訂 3、平成 25 年 3 月 29 日改訂 4）し、プラントの冷温停止維持に係わる設備等の本設復旧を計画的に実施しています。

本日午後 4 時現在のプラント状況等について、別表および以下のとおりお知らせします（下線部が新規事項）。

**○ 1 号機タービン建屋内（管理区域）における当社社員負傷に係る原因と対策について**

**1. 事象の発生状況**

平成 25 年 4 月 24 日午後 2 時 45 分頃、1 号機タービン建屋 2 階主冷凍機室内（管理区域\*<sup>1</sup>）において、重量ドラム缶（以下、「ドラム缶」）の搬送準備作業を行っていた当社社員が、ドラム缶とドラム缶の間に右手第二指（人差し指）を挟み負傷しました。

このため、当発電所内の診療所医師の判断により、午後 3 時 18 分に救急車を要請し、J ヴィレッジ診療所へ搬送しました。

その後、J ヴィレッジ診療所医師の判断により、骨折の疑いがあることから、午後 4 時 23 分に福島労災病院へ搬送しました。

当該社員の意識はあり、本人の身体への放射性物質の付着はありません。

福島労災病院で診察を受けた結果、「右示指末節骨開放骨折により約 4 週間の通

院加療を要する」と診断されました。

(平成 25 年 4 月 24 日、4 月 25 日お知らせ済み)

## 2. 調査結果

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・搬送準備作業に対する危険予知および安全対策について、事前の検討が不足していた。
- ・今回のドラム缶搬送作業で作成した手順書において、搬送準備作業に関する手順が不足していた。
- ・負傷した当該社員はドラム缶を取り扱う作業が初めての経験であった。
- ・重量物を取り扱う作業は複数人で行うこととしていたが、当該社員は搬送準備作業をドラム缶を少し動かす程度の単純な作業であると考え、重さ約 120 キログラムのドラム缶を一人で傾けて動かし、その後ドラム缶を元の位置に戻した。

## 3. 推定原因

搬送準備作業に対する危険予知および安全対策について、事前の検討が不足していたこと、ならびに、当該社員はドラム缶を取り扱う作業が初めてで同作業をドラム缶を少し動かす程度の単純な作業と考えていたことから、当該社員はドラム缶を一人で傾けて動かし、その後元の位置に戻す際にドラム缶とドラム缶の間に指を挟んで負傷したものと推定しました。

## 4. 対策

以下の対策を実施し、再発防止に努め、作業安全に万全を期してまいります。

- ・当社社員が「初めて、久しぶり、変化」に該当する直営作業を行なう場合は、手順書について安全担当の確認を得るとともに、事前検討会により過去の災害事例・類似災害等を含めたリスクを抽出し、作業者全員で対策を共有してから作業に着手する。
- ・重量物取扱作業の際は、作業前に各々の重量に応じた取扱上の留意事項、作業方法の厳守を織り込んだ内容で危険予知活動\*<sup>2</sup>を行う。
- ・重量物取扱作業に関する勉強会を実施するとともに、一人作業の禁止を再度周知し、徹底する。

(添付資料) 災害発生場所と状況について

### \* 1 管理区域

管理区域は放射線による無用な被ばくを防止するため、また、放射性物質による放射能汚染の拡大防止をはかるため管理を必要とする区域。

**\* 2 危険予知活動**

作業開始前に作業遂行上予想される危険を抽出・検討し、安全対策を立て実作業に活かす活動。

以 上

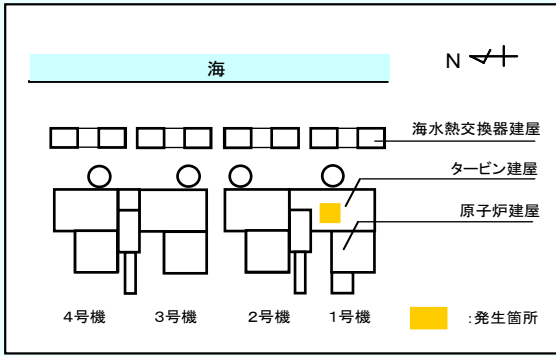
福島第二原子力発電所 プラント状況（平成25年5月13日 午後4時現在）

別表

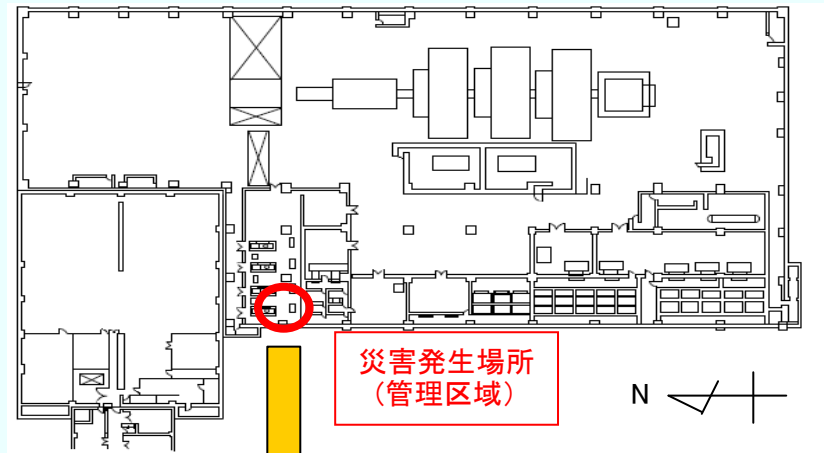
		1号機	2号機	3号機	4号機	参 考
原子炉の冷却	原子炉の状態	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	全燃料取出完了 (H24/10/24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●冷温停止とは、原子炉水の温度が100℃未満で原子炉が未臨界の状態をいう。</li> <li>●左記の水温は午後0時現在の温度。</li> </ul> ※全燃料取出完了に伴い、「-」表示に変更
	原子炉水の温度	26.5℃	24.8℃	27.3℃	— ※	
	残留熱除去系（A）	運転中	運転中	不待機	待機中	
	残留熱除去系（B）	不待機	不待機	運転中	待機中	
	原子炉冷却材浄化系	運転中	運転中	運転中	待機中	
使用済燃料プールの冷却	燃料プール冷却浄化系	運転中	運転中	運転中	運転中	<ul style="list-style-type: none"> <li>●使用済燃料プールの水温を65℃以下に保つよう、燃料プール冷却浄化系で冷却している。</li> <li>●左記の水温は午後0時現在の温度。</li> </ul>
	使用済燃料プール水の温度	26.6℃	25.6℃	28.3℃	26.5℃	
外部電源		受電有	受電有	受電有	受電有	<ul style="list-style-type: none"> <li>●当所の外部電源は、富岡線1号・2号（500kV系）、岩井戸線1号・2号（66kV系）の4回線がある。</li> </ul>
非常用電源	非常用ディーゼル発電機（A）	待機中	待機中	待機中	待機中	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部電源喪失時のバックアップとして、非常用ディーゼル発電機2台が動作可能な状態を確保している。なお、非常用ディーゼル発電機は、複数の号機で共用することが可能である。</li> <li>●発電所構内には、全交流電源喪失時に原子炉や使用済燃料プールに注水するための電力を供給する電源車を配備している。</li> </ul>
	非常用ディーゼル発電機（B）	不待機	点検作業中	待機中	待機中	
	高圧炉心スプレイ系 非常用ディーゼル発電機	待機中	待機中	待機中	待機中	
モニタリングポスト (空間線量率の測定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電所構内に7基（No.1～7）設置しているモニタリングポスト（環境中の放射線量を測定）の測定値に有意な変動はありません。</li> <li>・当社ホームページでモニタリングポストの測定値（空間線量率）を公開しています。 <a href="http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html">http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html</a></li> </ul>				
特記事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3号機残留熱除去系(A)の分解点検に伴い、残留熱除去系(A)を5/13 10:04～7/11(予定)まで不待機。</li> <li>・1号機残留熱除去系(B)および非常用ディーゼル発電機(B)の補機設備の点検に伴い、残留熱除去系(B)および非常用ディーゼル発電機(B)を3/29 15:30～5/24(予定)まで不待機。</li> <li>・2号機残留熱除去系(B)のポンプおよび補機設備の点検に伴い、残留熱除去系(B)を4/15 9:18～6/21(予定)まで不待機。</li> <li>・2号機非常用ディーゼル発電機(B)の機関および補機設備の点検に伴い、非常用ディーゼル発電機(B)を4/15 9:26～6/21(予定)まで不待機。</li> </ul>				

# 災害発生場所と状況について

## <発生場所>



[発電所全体]



[1号機 タービン建屋2階 主冷凍機室]

## <発生状況>

<状況>  
重量ドラム缶の搬送準備作業で、当社社員1名がドラム缶を傾けて動かし、その後元の位置に戻す際にドラム缶とドラム缶の間に右手第二指を挟み負傷。

